

第4学年2組 音楽科学習指導案

授業日 平成29年9月29日(金) A校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 佐藤 史人
会場 音楽室

1 題材名

俳句に音楽を♪ ―日本の音階を使って旋律づくり パートII―

2 本題材の価値

本題材は、新学習指導要領第6節音楽の第3学年及び第4学年の内容A表現(3)の内容を受けて設定した。

A 表現(3) 音楽づくり

ア(ア) 即興的に表現することをとおして、音楽づくりの発想を得ること。

イ(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

ウ(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

〔共通事項〕ア 音階、音色、リズム、旋律、強弱 イ 反復、呼びかけとこたえ、変化

本題材は国語科の「俳句づくり」と、音楽科の「日本の音階で旋律づくり」との教科等横断的な学習である。言葉による「見方・考え方」と音楽的な「見方・考え方」を働かせることで、俳句を音読して言葉の響きやリズムに親しみながらイメージを膨らませ、即興的に表現しながらイメージに合わせて音楽表現を考える力を発揮し、日本文化について教科横断的な理解を深めることができると考えたからである。本題材は、言葉と音楽とを結びつけて表現力を育成できることに価値がある。

音楽づくりでは、旋律楽器として和楽器(箏)を扱う。箏を演奏しながら、俳句のイメージと言葉のリズムや響きを手がかりに旋律を考えていく。9月上旬に学習した口唱歌(コロリン、シャシャテン等)を生かして旋律を工夫したり、前奏や後奏を付け加えたりすることによって、より俳句のイメージに合う旋律を考えることができる。

また、本題材では平調子の他に乃木調子を新たに提示する。新たな調子を音楽づくりに取り入れることで、俳句のイメージをさらに広げ、音楽表現をより工夫することができると思ったからである。

複数の調子(平調子と乃木調子)を扱うことで、次のような表現の工夫が期待できる。

①平調子でつくった旋律を、同じ運指、同じ奏法で乃木調子で試す。

②平調子でつくった旋律とは違うイメージや雰囲気、乃木調子で演奏した旋律から感じる。

③イメージや雰囲気の違いから、音楽表現をより工夫したり、俳句そのものを変えたりする。

このように複数の調子を扱うことで、子どもは、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という音楽的な「見方・考え方」と、**言葉の働きに着目する**という言葉による「見方・考え方」とを働かせ、即興的に表現することをとおして音楽づくりの発想を得る力(音楽科②思考力・判断力・表現力)、書き方などの表現を工夫する力(国語科②思考力・判断力・表現力)を発揮して、俳句に親しみながら音楽をつくって表現し、日本文化について理解を深めていくのである。

3 本題材で目指す姿

音楽を形づくっている要素の特徴を生かした表し方を考え、俳句に込めたイメージに合った旋律をつくる子ども

具体的には、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素(音階、音色、リズム、旋律、強弱、反復、呼びかけとこたえ、変化)とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という「見方・考え方」を働かせ、即興的に表現することをとおして音楽づくりの発想を得る力(音楽科②思考力・判断力・表現力)を発揮して旋律を工夫し、俳句に込めたイメージに合った旋律をつくる姿。

4 本題材で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全7時間(210)

単元カード参照

6 指導の構想

子どもはこれまでに、題材「俳句に音楽を♪―日本の音階を使って旋律づくり―」(7月)で、「日本の夏」をテーマに俳句をつくり、箏(平調子)、鉄琴、木琴を用いて、日本の音階(ミファラシドミ)を使って俳句のイメージに合った旋律をつくることができた。

9月上旬に、音楽科の題材「日本の音楽に親しもう」で、口唱歌(コロリン、シャシャテン、シャン、シュ)を用いた箏の演奏を体験した。そして、その体験を生かしてグループで数小節の旋律を即

興的につくる学習を行い、我が国の音楽のよさや面白さを感じ取ることができた。

9月中旬に、国語科の題材「日本の秋」をテーマに俳句づくりに取り組んだ。すると、既習の題材「俳句に音楽を♪」を想起した子どもは、「日本の秋」の俳句も音楽で表現したいと考え、箏（平調子）を使って俳句のイメージに合う旋律をつくり始めた。そして、口唱歌を唱えながら旋律を工夫する姿、旋律をつくりながらイメージが膨らんで俳句をつくり変える姿、表したい内容が同じ子ども同士でグループとなって、俳句をリレーしながら旋律をつなげて演奏する姿等が見られた。子どもは、これまでの学習を生かして俳句を音楽で表現することに楽しさを感じ、もっと表現したいと思っている（C0）。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

平調子でつくった音楽のモデルを乃木調子で演奏して提示し、乃木調子を試奏する時間を設定した後、感じたことを問う。

問いをもたせるための働き掛けである。

まず、教師作の平調子でつくった音楽のモデル（モデルA）を提示する。子どもは、モデルAは自分たちの作品と同じような作品だととらえ、共感的に聴く。

次に、モデルAを乃木調子で演奏して提示する（モデルB）。必要に応じて再度モデルA・Bを演奏する。子どもは、2つのモデルを聴き比べて雰囲気が違うことに気付き、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音階、旋律）とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という「見方・考え方」を働かせて、「同じ旋律を演奏しているはずなのに、モデルBはなんだかイメージが違う」「モデルBは音（音階の音）が違うから雰囲気が変わるのではないか」等と考え、モデルBの音階を確かめたいとなる。

その後、モデルBの音階は乃木調子であることを伝え、拡大して示す。そして、乃木調子に合わせた箏をグループに配付し、自分の作品を乃木調子で試奏する時間を設定する。子どもは、乃木調子で演奏すると、旋律の音が変わること、俳句のイメージや雰囲気も変わることを実感する。乃木調子で演奏して感じたことを問うと、子どもは、進んで日本の音楽に親しもうとする態度（**音楽科③態度**）を発揮して、俳句のイメージに合わせて乃木調子でも旋律をつくりたいと考える。この姿が問いをもった姿である。

働き掛け2

どんな表現の工夫ができそうかと問い、音楽づくりの時間を設定する。

見通しをもたせ、音楽づくりさせるための働き掛けである。

俳句のイメージに合わせて乃木調子でも旋律をつくりたいと考えている子どもに、「乃木調子を使って音楽づくりすると、どんな表現の工夫ができそうか」と問い、学習シートに記述させる。子どもは、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音階、旋律）とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という「見方・考え方」を明確に働かせて、進んで日本の音楽にかかわり、協働して音楽活動しようとする態度（**音楽科③態度**）を発揮して、「乃木調子で新しい旋律をつくらしてみたい」「乃木調子で演奏すると雰囲気が変わるから、相談しながら俳句も変えてみたい」「俳句の演奏をグループで相談して、平調子の演奏と乃木調子の演奏を混ぜてみたい」等と記述し、乃木調子で演奏しながら音楽づくりできそうだと見通しをもつ。

その後、音楽づくりの時間を設定する。箏は、3～4人で一面を順番に使うこととする。子どもは、即興的に表現することをおして音楽づくりの発想を得る力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して、平調子と乃木調子のどちらが俳句のイメージに合っているのか考えたり、イメージに合わせて乃木調子で旋律を変えたりする。

また、俳句のイメージや雰囲気の変化を感じ、**書く言葉の使い方に着目する**という「見方・考え方」を働かせた子どもは、書き方などの表現を工夫する力（**国語科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して俳句の表現を工夫したり、新しい俳句を考えたりする。

考えた旋律や相談したことは、学習シート及びタブレット端末（動画）に記録させる。

働き掛け3

中間発表会を設定し、気付いたことを問うた後、再び音楽づくりの時間を設定する。

互いの工夫点や改善点から作品をよりよくする視点を持ち、それらを生かして音楽づくりさせるための働き掛けである。

まず、2グループが互いの演奏を聴き合う中間発表会を設定し、学習シートと付箋紙を配付する。子どもは、互いに作品を聴き合い、付箋紙を使って気付いたことを伝え合いながら、工夫点や改善点を確認する（**協働性**）。

次に、全体において、中間発表会をおして気付いたことを問う。子どもは、互いの工夫点や改善点を発表する。出された工夫点や改善点を全体で共有できるように整理し、板書する。子どもは、整理された工夫点や改善点を視点として、それらを生かして音楽づくりしたいと考える。

その後、再び音楽づくりの時間を設定する。子どもは、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音階、音色、リズム、旋律、強弱、反復、呼びかけとこたえ、変化）とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という「見方・考え方」を働かせ、即興的に表現することをおして音楽づくりの発想を得る力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して、自分のイメージに合う表現を試したり工夫したりしながら旋律をつ

くる。また、表現の工夫を互いにアドバイスし合ったり、平調子と乃木調子との組み合わせ方について相談したりする（協働性）。

また、俳句のイメージや雰囲気の変化を感じ、書く言葉の使い方に着目するという「見方・考え方」を働かせた子どもは、書き方などの表現を工夫する力（国語科②思考力・判断力・表現力）を発揮して俳句の表現を工夫する。

このようにして、子どもは、音楽づくりを進め、作品を仕上げていく。考えた旋律や相談したことは、学習シート及びタブレット端末（動画）に記録させる。子どもは、演奏する様子を録画し合いながら、作品を聴き直したり、よりよくなった作品を記録したりしていく（ツール活用能力）。

働き掛け4

完成発表会を設定し、音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

まず、音楽を完成させて発表会を設定する。子どもは、「日本の秋」を詠った俳句を演奏し、発表する（音楽科、国語科①知識・技能）。できた作品は、学習シートと録画の両方で記録させる。一連の学習をとおして、子どもは、音楽を形づくっている要素の特徴を生かした表し方を考え、俳句に込めたイメージに合った旋律をつくる子ども（Cn）になる。

次に、振り返りシートを配付し、音楽作品の特徴を記述させる。子どもは、学習シートや記録動画で一連の学習を振り返りながら、「私は、初めに『指先に とまってくれた 赤とんぼ』という俳句をつくりました。赤とんぼが友達になってくれた感じをコロリンを使って平調子で表現できました。次に、乃木調子で演奏してみたら、旋律の音が明るい雰囲気に変わり、赤とんぼがみんなと一緒に空に飛んでいくようなイメージがわかりました。そこで、『また明日 みんなと帰る 赤とんぼ』と、新しい俳句をつくりました。そして、最後の音を高く伸ばすように変えて、夕焼け空に飛んでいくように表現しました。後奏でシャシャテンテンを入れて遠くに飛んでいく雰囲気を出しました。どちらも演奏したら俳句が物語のようになりました」等と振り返りシートに記述し、音楽づくりで発揮した資質・能力と、その結果どのような作品をつくることができたのかを自覚する。

7 本時の構想（本時 5/7時間）

(1) ねらい

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音階、旋律）とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付けるという「見方・考え方」を働かせて、即興的に表現することをとおして音楽づくりの発想を得る力（音楽科②思考力・判断力・表現力）を発揮して、平調子と乃木調子のどちらが俳句のイメージに合っているのか考えたり、イメージに合わせて乃木調子で旋律を変えたりすることができる。また、俳句のイメージや雰囲気の変化を感じ、書く言葉の使い方に着目するという「見方・考え方」を働かせて、書き方などの表現を工夫する力（国語科②思考力・判断力・表現力）を発揮して俳句の表現を工夫したり、新しい俳句を考えたりすることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 題材「俳句に音楽を♪-日本の音階を使って旋律づくり-」（7月）で、「日本の夏」をテーマに俳句をつくり、箏（平調子）、鉄琴、木琴を用いて、日本の音階（ミファラシドミ）を使って俳句のイメージに合った旋律をつくることができた。
- 題材「日本の音楽に親しもう」（9月上旬）で、口唱歌（コロリン、シャシャテン、シャン、シュ）を用いた箏の演奏を体験し、その体験を生かしてグループで数小節の旋律を即興的につくる学習を行い、我が国の音楽のよさや面白さを感じ取ることができた。
- 9月中旬に、「日本の秋」をテーマに俳句づくりに取り組んだ（国語①）。すると、既習の題材「俳句に音楽を♪」を想起し、「日本の秋」の俳句も音楽で表現したいと考え、箏（平調子）を使って俳句のイメージに合う旋律をつくり始めた。口唱歌を唱えながら旋律を工夫する姿、旋律をつくりながらイメージが膨らんで俳句をつくり変える姿、テーマや季語が同じ子ども同士でグループとなって、俳句をリレーしながら旋律をつなげて演奏する姿等が見られた。
- これまでの学習を生かして俳句を音楽で表現することに楽しさを感じ、もっと表現したいと思っている（C0）。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 平調子でつくった音楽のモデルを乃木調子で演奏して提示し、感じたことを問う。
・説明「みなさんは、『日本の秋』の俳句に合う旋律をつくって、俳句を歌いながら演奏できるようにしましたね。先生も旋律をつくってみました。聴いてください」
※ モデルAを、箏で演奏して聴かせる。

教師作の俳句：玄関で ふと耳すます 鈴虫だ

【モデルA】
平調子（ミファラシドミ）





- ・説明「同じ作品を、こちらの箏でも演奏してみます。聴いてください」
- ※ モデルBを、箏で演奏して聴かせる。

【モデルB】

乃木調子(ミファ[#]ラシド[#]ミ)



- ※ 必要の応じて、モデルA・モデルBを再度聴かせる。
- ※ 補助発問「音から感じるイメージは同じですか」「鈴虫はどんな様子かな」と感じていることを取り上げ、同意を挙手で確認する。

○ 乃木調子で試奏する時間を設定した後、感じたことを問う。

- ・説明「この音階を乃木調子と言います。平調子のように、日本の音階の一つです」
- ※ 拡大した乃木調子の音階を掲示する。
- ・指示「乃木調子の箏で、自分の作品を試し弾きしてみましょう」
- ※ 乃木調子に合わせた箏と爪を配付する。
- ・発問「乃木調子を演奏してみて、感じたこと何ですか」
- ※ 感じたことを取り上げ、同意を挙手で確認する。

このようになり (01)

- 2つのモデルを聴き比べ、音階の違いを聴き取る。
 - ・モデルAは、私たちと同じような「日本の秋」を詠った俳句だね。
 - ・あれ、モデルBはなんか違うぞ。
 - ・箏の音が違うのかな。
 - ・同じ旋律を演奏しているはずなのに、モデルBはなんだかイメージが違うと感じました。
 - ・モデルBは音(音階の音)が違うから雰囲気が変わったのかなと感じました。
 - ・自分でもモデルBの音階で作品を演奏してみたいです。

【A児の作品例】平調子

俳句：指先に とまってくれた 赤とんぼ



- 乃木調子でも旋律をつくりたいと問いをもつ。
 - ・乃木調子で演奏すると、旋律の音が変わるね。
 - ・俳句のイメージも変わった気がする。
 - ・乃木調子で作品をもっと工夫してみたいです(音楽科③)。
 - ・私も乃木調子で音楽づくりしたいです(音楽科③)。

【A児の作品例】乃木調子

俳句：指先に とまってくれた 赤とんぼ



- ※ のように、音階や旋律の違いを感じて発言したり、同意の挙手をしたりしている状態を、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素(音階、旋律)とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という「見方・考え方」を働かせた姿と判断する。
- ※ のように、聴き取った音階を使って旋律をつくりたい等と発言したり、同意の挙手をしたりしている状態を、**音楽科③を発揮した姿、問いをもった姿**と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- **どんな表現の工夫ができそうかと問う。**
 - ・発問「乃木調子を使って音楽づくりすると、どんな表現の工夫ができそうですか。学習シートに書きましょう」
 - ※ 事前に学習シートを配付しておく。
 - ・指示「どんな表現の工夫ができそうか発表してください」
 - ※ 考えを取り上げ、同意を挙手で確認する。
- **音楽づくりの時間を設定する。**
 - ・指示「それでは、乃木調子の箏を使って音楽づくりをしましょう」
 - ・説明「箏は3～4人で一面を順番に使いましょう」
 - ・指示「考えた旋律や相談したことは学習シートやタブレット端末の動画で記録しましょう」

このようになり (C2)

- 音楽づくりの見通しをもつ。
 - ・ 乃木調子で新しい旋律をつくってみたいです。
 - ・ 乃木調子で演奏すると雰囲気が変わるから、相談しながら俳句も変えてみたいです。
 - ・ 俳句の演奏をグループで相談して、平調子の演奏と乃木調子の演奏を混ぜてみたいです。
- 音楽づくりをする。
 - ・ 平調子と乃木調子のどちらが俳句のイメージに合っているのか、弾いて比べてみよう。
 - ・ 俳句のイメージに合わせて乃木調子で旋律を変えてみよう。
 - ・ イメージが変わったから俳句の言葉を変えたいな。
 - ・ 雰囲気が新しい俳句が思いついたから書いてみよう。

【A児の作品例】 乃木調子

新俳句：また明日 みんなと帰る 赤とんぼ



- ※ _____のように、音階や旋律の違いを感じて発言したり、同意の挙手をしたりしている状態を、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音階、旋律）とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付ける**という「見方・考え方」を働かせた姿と判断する。
- ※ _____のように、進んで日本の音楽にかかわり、協働して音楽活動しようとしている状態を、**音楽科③**を発揮した姿、音楽づくりの見通しをもった姿と判断する。
- ※ _____のように、即興的に表現しながら音楽づくりしようとしている状態を、**音楽科②**を発揮した姿と判断する。
- ※ _____のように、俳句のイメージや雰囲気の変化を感じて俳句の表現を考えている状態を、**書く言葉の使い方に着目する**という「見方・考え方」を働かせた姿と判断する。
- ※ _____のように、書き方等表現を工夫している状態を、**国語科②**を発揮した姿と判断する。

本時ここまで

このように働きかけると【働き掛け3】

- **中間発表会を設定する。**
 - ・ 説明「それでは、中間発表会を行います。2グループが互いの演奏を聴き合ひましょう」
- ※ 学習シートと付箋紙を配付する。
- **中間発表会をとおして気付いたことを問う。**
 - ・ 発問「中間発表会をとおして気付いたことは何ですか」
- ※ 出された工夫点や改善点を全体で共有できるように整理し、板書する。
- **再び音楽づくりの時間を設定する。**
 - ・ 指示「それでは、再び自分の作品の音楽づくりを行いましょう」
 - ・ 指示「作品ができた人は、グループの人に録画してもらいましょう」

このようになり (C3)

- 互いの工夫点や改善点に気付く。
 - ・ 乃木調子の雰囲気と新しい俳句は合っているね。
 - ・ 言葉と旋律のリズムが合っていないところを直した方がいいよ。
 - ・ 最後の部分はゆっくりにするともっと雰囲気がでると思います。後奏を付けたらどうかな。
 - ・ リレーした俳句の最後が平調子で暗い感じだった。最後が乃木調子でもよいと思うよ（協働性）。
- 作品をよりよくする視点をもつ。
 - ・ 乃木調子の雰囲気にから、新しい俳句をつくっていてよかったです。
 - ・ 俳句の言葉を変えたら、旋律のリズムも合わせた方がいいと思いました。
 - ・ 最後の音をゆっくりに演奏したり、後奏を入れたりしたらもっと雰囲気が出ると思いました。
 - ・ リレーした俳句は、平調子と乃木調子の順番を工夫した方がいいと思いました。
 - ・ みんなの工夫点を自分の作品にも試してみたいな。
- 互いの工夫点や改善点を生かして、音楽づくりする。
 - ・ 赤とんぼがみんなで空に向かって飛ぶイメージなんだよな。
 - ・ 最後の「赤とんぼ」を、ゆっくり高い音で表現してみよう。
 - ・ 「シャシャテンテン」で後奏を入れてみよう。
 - ・ やっぱり平調子も乃木調子もどちらも演奏したいな。
 - ・ じゃあ、最初の俳句に平調子、最後の俳句を乃木調子でつなげてみようよ。
 - ・ 俳句のイメージが変わったから、俳句の言葉を少し変えようかな。
 - ・ 録画できたよ。聴いて確認しよう（ツール活用能力）。

【A児の作品例】乃木調子
 新俳句の終わりの旋律を高く、ゆっくりに
 (後奏も演奏する)



- ※ _____のように、音楽を形づくっている要素に関わるアドバイスをしたり、表現を工夫したりしている状態を、**音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音階、音色、リズム、旋律、強弱、反復、呼びかけとこたえ、変化）とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化等と関連付けると**いう「見方・考え方」を働かせた姿と判断する。
- ※ _____のように、即興的に表現しながら音楽づくりしようとしている状態を、音楽科②を發揮した姿と判断する。
- ※ _____のように、俳句のイメージや雰囲気の変化を感じて俳句の表現を考えている状態を、**書く言葉の使い方に着目する**という「見方・考え方」を働かせた姿と判断する。
- ※ _____のように、書き方等表現を工夫している状態を、国語科②を發揮した姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- **完成発表会を設定する。**
 - ・説明「それでは、完成発表会を行いましょう」
- ※ 発表に必要な楽器を準備する。必要があれば、楽器の奏法や録画方法について助言する。
- **音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。**
 - ・指示「振り返りシートを配付しますので、音楽作品の特徴を書きましょう」
- ※ 録画した動画を見ながら振り返ってもよいこととする。

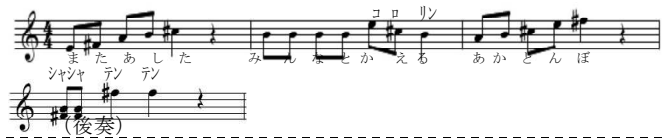
このようになる (Cn)

- 「日本の秋」を詠った俳句を表現している音楽作品を発表する。
 - ・録画の準備もできているから、発表していいよ。
 - ・発表します。演奏「指先に とまってくれた 赤たんぼ」～(他の俳句とつなげる)
 ～(最後の俳句に) 演奏「また明日 みんなと帰る 赤たんぼ」(音楽科、国語科①)

【A児の作品例】平調子
 俳句：指先に とまってくれた 赤たんぼ



【A児の作品例】乃木調子
 新俳句の終わりの旋律を高く、ゆっくりに
 (後奏も演奏する)



- 学習のまとめとして音楽作品の特徴を振り返り、学習シートに記述する。
 - ・最初の記録動画から最後の記録動画を見て、工夫したことを確認しよう。
 - ・私は、初めて『指先に とまってくれた 赤たんぼ』という俳句をつくりました。赤たんぼが友達になってくれた感じをコロリンを使って平調子で表現できました。次に、乃木調子で演奏してみたら、旋律の音が明るい雰囲気に変わり、赤たんぼがみんなと一緒に空に飛んでいくようなイメージがわきました。そこで、『また明日 みんなと帰る 赤たんぼ』と、新しい俳句をつくりました。そして、最後の音を高く伸ばすように変えて、夕焼け空に飛んでいくように表現しました。後奏でシャシャテンテンを入れて遠くに飛んでいく雰囲気を出しました。どちらも演奏したら俳句が物語のようになりました。

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を發揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け1と2と3と4を受けて、_____のように自分のイメージに合わせて音楽表現を考え、俳句に込めたイメージに合った旋律をつくることができたかどうかを、発言や記録動画や学習シート、振り返りシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け1と2と3を受けて、各下線で示したように想定した「見方・考え方」を働かせているかどうかを、発言や学習シート、振り返りシートの記述から検証する。
- ③ 働き掛け1と2と3と4において、各下線で示したように想定した資質・能力が發揮されたかどうかを、発言や記録動画や学習シート、振り返りシートの記述から検証する。